

## 「テレビや CM の“今むかし”から考えるジェンダー平等」

講師に NPO 法人 SEAN 理事長 小川 真知子さんをお迎えし、テレビや CM から見えてくる昔・今のジェンダーに対する見方及び考え方について講義をしていただき 19 名の参加がありました。

講演では

・男女共同参画=男女平等=ジェンダー平等をめざすとは、性に基づく差別的な区別、排除、制限をなくし、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野での平等をめざすことである。

・昭和の CM が描いてきた女と男とは・・・「男は仕事、女は家庭」

衣・食・住・健康管理 CM はい女が主役

強壮剤・不動産・保険 CM は男が主役

女の子はやさしく、お母さんの手伝いをする存在

男の子は腕白でお母さんから世話される存在

・平成の終わりの CM が描く女と男とは・・・

家事・子育てをする男性の CM が多く見られるようになる。

・社会の変化・・・①共働きがあたりまえの社会

②男は外・女は内は古い。

③労働力不足・日本の人口の変化

・高度経済成長期の成功体験のまま男性も働き方変えたいというも拒まれ離職せざる負えない現状も、その結果日本は子どもを生み、育てづらい国になってしまった。

・今なぜメディアリテラシーが必要なのか。多くのことがメディアを通してやってくる。それを“ほんまかいな精神”で批判的に判断、選択し、SNS などで情報を発信することが大事である。

・アンテナをはって自分らしく生きるためには一人ひとりがメディアになり、ジェンダーを見抜く目を養おう！

といったお話がありました。

・受講者の皆さんも昔の CM に懐かしい目で笑いもありながら、時にはうなづき、楽しく講義に耳を傾けていらっやいました。

・講義後のアンケートでは「普段感じているモヤモヤ、これから作りたい社会について重要な学びになりました。」「CM やテレビでは、知らず知らずにジェンダーバイアスがかかっていることがよく分かった」などの声が寄せられました。